

9 太平洋と日本海を結ぶ新たな高速道路ネットワークの形成について

太平洋と日本海を結ぶ中部横断自動車道は、日本列島の中央部において、新東名高速道路、中央自動車道、上信越自動車道と連結し、新たな高速道路網を形成することにより、沿線地域の緊密な交流・連携を促進し、地域の産業、経済、観光、文化等の振興・発展に大きな活力を与え、平成 39 年に開業するリニア中央新幹線の生み出す経済効果を広く各地に波及させることが期待されるとともに、東海地震・東南海地震や富士山噴火等の発災時においては、広域的防災体制を強化し、緊急輸送路としての役割を担うなど、防災や国民の安全安心に不可欠な「命の道」でもある。

また、平成 28 年 3 月に策定された首都圏広域地方計画において、山梨・神奈川・長野・静岡の多様な地域資源をリニア中央新幹線や高速道路などの高速交通ネットワークを活用し国際観光地の形成や広域周遊観光の推進を目指す「富士山・南アルプス・八ヶ岳対流圏の創出プロジェクト」が位置付けられており、中部横断自動車道の整備は、重点的に促進する必要がある。

現在、事業中である新清水 JCT～六郷 IC 間については公表している平成 30 年度または 31 年度までに順次開通をすべく、また八千穂高原 IC～佐久南 IC 間については平成 29 年度内に確実に開通すべく、鋭意工事が進められている状況にあり、中部横断自動車道の開通の効果を最大限に発揮するため、沿線自治体では、地域活性化インターチェンジの整備及び清水港や周辺アクセス道路の整備、また、企業誘致など、まちづくりをしっかりと行っている。

更に、残る唯一の未事業区間である長坂 JCT（仮）～八千穂高原 IC 間は、総決起集会の開催による地元の声の結集や要望活動が行われるとともに、県が窓口となって関係者の合意形成に努めるなど、事業促進に向けて積極的な取り組みを行っているところである。

については、次の事項について特段の措置を講じられたい。

- 1 静岡県・山梨県・長野県を結ぶ中部横断自動車道について、全線を早期に完成させること。
- 2 中部横断自動車道の新清水 J C T ～六郷 I C 間について公表している平成 30 年度または 31 年度までの一日も早い全線の開通を、また八千穂高原 I C ～佐久南 I C 間について平成 29 年度内の開通を、確実に図ること。
- 3 中部横断自動車道長坂 J C T（仮）～八千穂高原 I C 間について、全区間一体で環境影響評価の手続きを速やかに進め、早期事業化を図ること。